

# 播磨 まちかどニュース

## With いなみ野学園



兵庫県いなみ野学園では、大学院生などの受講生が自主制作として、地元ケーブルテレビ局「BAN-BANテレビ」と協働し、テレビ番組「播磨まちかどニュース With いなみ野学園」を制作しています。学園内外の魅力的な活動を映像で紹介する15分の番組です。瓦版では、これまでの配信動画の内容を紹介しています。

### ★★最新の配信動画★★

現在、いなみ野学園ホームページに掲載している動画をご紹介します。

播磨まちかどニュース with いなみ野学園 112

◆配信日：令和7年12月1日◆

## いなみ野学園研究生による講座

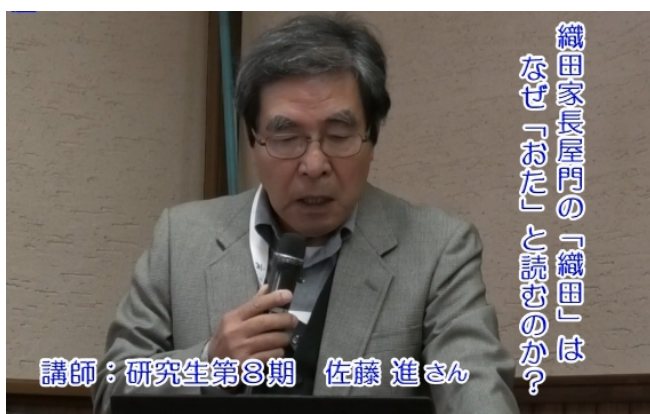


今回、「いなみ野学園研究生による講座」の模様をお伝えします。

いなみ野学園の研究生とは、大学院を卒業後、さらに自身の研究を進めたいとの思いで集う組織です。

今回の講座のように、研究生のみなさんは、それぞれのテーマで研究してきた成果を90分間発表されます。90分間ですから、みなさん、結構突っ込んだ内容の発表をされています。

今回は、研究生8期生の佐藤 進さんと、研究生3期生の小笠原嘉範さんのお二人が、令和7年11月6日（木）、いなみ野学園の中教室を会場にして発表されました。



講師：研究生第8期 佐藤 進さん

織田家長屋門の「織田」はなぜ「おた」と読むのか？

す。佐藤さんの今回の講座は、「織田家長屋門」の「織田」はなぜ「おた」と読むのか？がテーマです。私たちも、織田信長は「おだのぶなが」と読んでいます。つまり濁って読む「おだ」ですが、佐藤さんは「おた」ではないかと。



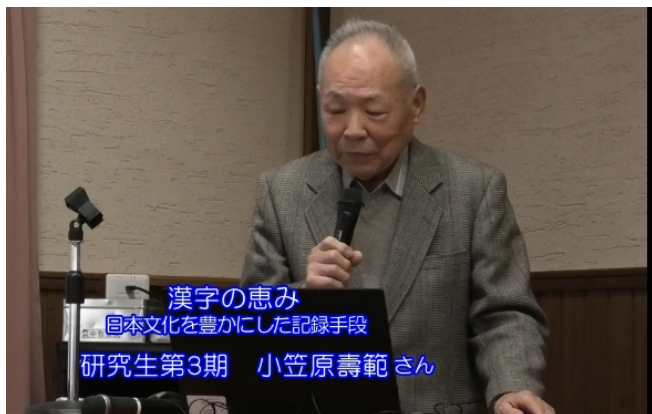
自分の疑問を解決すべく調べて行くと、今回の発表のように・・・。

佐藤さんは、「糸生（いとう）地区は糸を紡いだ、糸を織ったことから「おた」に。また、「延喜式神名帳」に「オリタ」のルビがある。いつしか「おた」に変化したのでは。もう一つ、織田一族の発祥地、丹生（にゅう）郡越前町織田荘の呼称がみな「おた」と言う。その3点から「おだ」ではなく「おた」だと、ご自身の研究をまとめられまし

初めは、8期生の佐藤 進さんの発表で

た。

このように、研究生のみなさんは、大学院後も新たな課題が出てきてもっと調べてみようとなったり、また、別のテーマで新たに研究してみたいとなっていて、90分もの深い研究へと行き着いているのですね。



続いては、3期生の小笠原嘉範さんです。

「漢字の恵み」を発表のテーマに、四大文明圏で文字が生まれ、漢字は中国の甲骨文字から説き起こされました。

## はじめに

古代、我が国は海外との交流が少なく、国外の動向・情報に疎遠であったが、大陸の中華から先進文化・文明と共に表音・表意文字の漢字が伝えられた。

- ・偉大な思想や経典が漢字文書として我が国に導入され、我が国の文化活動が急速に発展し、我が国固有文化の形成へと繋がった。
- ・我が国で漢字が咀嚼され消化されて、我が国固有の言語との対応が図られ、漢字を使用して繊細な大和言葉を文章表現するために、漢字を補完する仮名文字が考案され、我が国特有の文学が開花した。
- ・我が国の文化・文明の発展に影響を与えた漢字の導入に関連して、漢字が中華で実用化された初期から、我が国に導入され国情に合わせて標準化及び改善発展の工夫が図られて来ている。その発展の過程を辿る。

## 文字使用の始まり

人類が社会を形成して社会の規則や情報等を広く伝達し、保存し、後世に伝える最も身近な記録手段として、先進文明圏で文字が発明された。

文字の名称	使用開始時期	解説時期
シュメール楔形文字（メソポタミア）	BC3000年頃	1851年 H.ローリンソン(英)
エジプト神聖文字（エジプト）	BC3000年頃	1822年 J.F.シャンポリオン(仏)
インダス象形文字（インド）	BC3000年以前	未解説（記載文字数が少）
漢字（中国）	BC1600年以前	継続使用のため、古代文字の解説完了

「シュメール楔形文字」及び「エジプト神聖文字」は19世紀に解説されている。「インダス象形文字」は文章表現がなく、未解説の状態である。「漢字」は表音・表意文字であった。古代文明圏の四種類の古代文字の中で、唯一、現代まで継続して使用されている。

「殷の時代に卜占（ぼくせん：うらない）に用いられた亀甲や牛骨に刻まれた甲骨文字が最古のものとされていること」。また、「各文字自体に意味を持つため、その意味によって

意思の伝達が可能であったこと」など話されました。更に、漢字が我が国に伝えられたのは、「百済の聖明王により紀元538（または552）年に」と。それ以前には『後漢書』に「漢倭奴国王」の金印に記載がある。また『魏志倭人伝』に卑弥呼が魏に使いし、勅書・金印を賜ったとの記載がある」との説明でした。

小笠原さんは、これまでも中国に関わる研究を続けてこられ、今回は「漢字」をテーマに発表されましたが、中国に関して深い造詣が伺えます。

## 漢字の我が国への伝来

漢字は、仏教の経論と共に紀元538年（又は552）に、百済の聖明王により我が国の朝廷に伝えられたとされる。それ以前に、漢字と次のような接触があったとの記録がある。

- ・『後漢書』に、紀元57年倭の奴国王が後漢に入貢し、光武帝より「漢委奴国王（かんのわのなこくおう）」の金印を賜ったことが、記載されている。
- ・『魏志倭人伝』に、紀元239年邪馬台国の女王卑弥呼は、魏に遣使して、勅書、金印紫綬と銅鏡を賜ったことが、記載されている。



「漢委奴国王」の金印

後半も、漢字が我が国に伝えられ、その後、音読み・訓読みへと、さらに「かな文字（ひらがな・カタカナ）」が生まれ、日本独特の文化を育んだことなど、詳しく解説されました。

お二人の発表を聴きながら、自分で関心を持ったこと、また疑問に思ったことを、「では、調べてみよう」と始められ、最終今回の結論に至ったこと。よく調査をされたなあと感心します。「好きこそものの・・・」と言いますが、好きなテーマならとことん突き進もうとなるのでしょうか。他の研究生のみなさんも、多分、同じように熱い取り組みを続けておられるでしょう。

そこで一言、「自分の好きに体当たりする 学びの楽しさはそこから始まる」

（ナレーション 大前小夜子）





# R7年度いなみ野祭 ～仲間と創る いなみ野時間～

今回は、去年の11月に行われました学園一のイベント「いなみ野祭」の模様をお伝えしましょう。

令和7年11月15日(土)・16(日)の2日間。晴天の秋空の元、穏やかで比較的暖かな中、開催されました。今回の「いなみ野祭」のテーマは「学びの輪 地域の和 みんなでつくる 笑顔のひととき」でした。一日目の15日土曜日。橋本正人、兵庫県生きがい創造協会理事長兼いなみ野学園長のあいさつ、並びに主催者の藤井隆博大学自治会会長のあいさつがありました。



橋本学園長からは、「すべて学生、自治会が運営され、学生のみなさんのお祭りが「いなみ野祭」。その魅力を知

っていただく絶好の機会です。大いにがんばってください」と話されました。



また、藤井自治会長は、「演技に展示に、みなさんの準備の積み重ねで今日の「いなみ野祭」があります。是非その思いを感じ取って下さ

い」と話されました。

10時、開演宣言の後、いよいよ「演芸大会」が始まりました。謡曲クラブのみなさんの最初のステージから始まり、以降、詩吟クラブ、マジッククラブなどと続き、多彩な演目が披露されました。また、黒田恵先生が思い出の歌を弾き語りで「独唱」され、ソプラノの美しい声を聴かせてくれました。会場か

らは、演技が終わるごとに大きな拍手が沸いていました。



一方、大講堂以外の教室では、書道、水墨画、手描き友禅、絵手紙、写真、絵画などの作品展示発表が行われ、多くの来場者が鑑賞にこられていました。また、手作り店の前では、野菜、果物、陶芸品などの即売もありました。また、加古川警察署の協力で白バイ・パトカーの触れ合い写真撮影が行われ、大人気でした。



午後からは、文化4年生の「ミュージカルに挑戦」から始まり、社交ダンス、三線、フラダンス、青春ソング、太極拳などの発表が続きました。フィナーレは、県立農業高校の吹奏楽部の力強い演奏があり、「アンコール」の声にこたえて、盛大に一日目の幕を閉じました。

明けて2日目日曜日。今日もいい天気。午前9時30分に開会。初めに毛利修三大学院自治会長のあいさつでスタートしました。毛利大学院自治会会長は、「今日も一日、全員が楽しめる演芸大会になることを願っています」と挨拶されました。



南京玉すだれクラブ



男声四部合唱

兵庫大学吹奏楽部が見事な演奏を聴かせてくれました。



コーラス部

いっぱいに響きわたる歌声を聴かせてくれました。

演芸の一番目は謡曲クラブの発表からでした。

その後は、社交ダンス、歌謡曲、南京玉すだれ、男声四部合唱などと続き、

午前の最後に兵庫

大学吹奏楽部が見事な演奏を聴かせてくれました。午後からの演芸発表は謡曲、マジックやフラダンス、太極拳などと続き、最後はコーラス部による合唱、会場



大学自治会  
森畑 稔 副会長

最後に、森畑 稔大学自治会副会長が、「プログラムは全て終了しました。渾身の演技・演奏をお楽しみただけでしたか。みなさんのご協力

で大盛況で終わられました」と挨拶されました。2日間、全てがとどこおりなく行われ、第52回の「いなみ野祭」が無事成功裡に終わることができました。参加されたみなさんの一致団結により、今回も大いに盛り上がった「いなみ野祭」。来年もまた、この場で仲間と出会い、楽しみましょう。

そこでひとこと、日頃の成果発表と併せて、『久しぶり、元気になってた？』と仲間との出会いも「いなみ野祭」ならではの魅力です。

今回の52回目の「いなみ野祭」も、演芸大会をはじめ作品展示、屋内・屋外イベント、即売会などと、大いに盛り上がるものとなりました。初めのあいさつで橋本学園長が話された通り「参加したみなさんで盛り上げ大いにアピールしてください」と、正にその通りのお祭りとなったなあと思います。それもひとえに大勢のみなさんが一致協力してできたからです。そして、来年もまた、この場で仲間と会いましょう、楽しみましょう。

(ナレーション 吉川 千代子)



【いなみ野学園 動画配信ホームページ】

[https://www.hyogo-ikigai.or.jp/ikigai/video/video\\_inamino\\_summary.html](https://www.hyogo-ikigai.or.jp/ikigai/video/video_inamino_summary.html)

《編集・発行》

いなみ野学園 ビデオ制作委員会 (いなみ野学園大学院講座・研究生) ☎ 079-424-3342